

## 真実の隣国

### —日本人留学生が伝えたい中国—

BJSA北京日本人留学生社団代表 馬場 大地

BABA Daichi

キーワード： 海外留学、中国

#### 「日中間問題と留学経緯」

あなたは、今現在中国にどのような印象をお持ちでしょうか？多くの方が中国に対しマイナスイメージを持ち、それは日本社会全体に深く根付き始めています。マイナスイメージの多くが食品衛生問題と歴史的問題にあります。例えば中国毒餃子事件・毒ミルク事件・尖閣諸島の領土問題等。このような問題が起きる度に私達日本人は中国に対し落胆し、もはや信用などという言葉は存在しません。また、最近ではPM2.5の空気汚染が発生し、中国及びその隣国までも多大な悪影響を受けていることは皆さん勿論ご承知だと思います。私も今年の1月頃学校の図書館から夜宿舎へ帰る時、前の道が霞んで見えない状況のスモークが発生し、初めて空気汚染の恐ろしさを実感しました。その後2月頃からPM2.5という微粒子が含まれていることが発覚し現在は黄砂と混じりより酷くなっています。中国国内でも国民から大批判を受けた政府は、この環境問題を早急に解決しなければならない課題として取り上げ今現在環境の専門家と改善に取り組んでいるところです。日本の空気清浄機、マスクなどが今大変売れています。今後日本の環境技術が中国を救うことは言うまでもありません。

冒頭から日本と中国のマイナスイメージについてお話しましたが、ではなぜこのような中国に留学をしようと決意したのか私の経緯と体験を踏まえご紹介したいと思います。

私は、2007年春初めて一人で中国首都北京を訪れました。父親が日中間の貿易関係の仕事をしていることがきっかけでした。中学生の私は初めての海外が中国ということで不安がありましたが、一度北京に到着してみると多くの人・物・景色がとても新鮮で鳥肌が立っていたのを今でもはっきりと覚えています。その時中国語は一言も出来ませんでした。日本人として漢字の意味は分かるので何とかタクシーに乗り父親の会社まで辿り着きました。その当時、中国国内は2008年北京オリンピックの1年前ということで、環境整備と国民のモラル向上に国全体が一丸となり改善し、中国の実力を世界に見せつけようと努力していたのがとても強く感じられました。もっと言えば、中国は所謂面子を保つ為に必死でした。その後一週間北京に滞在し、多くの刺激を受け日本へ帰国しました。予定では、中学を卒業後中国の高校へ進学するつもりでしたが、小学校2年から野球に夢中になっていた私は、高校で継続して野球をし甲子園を目指したいと強く思い、中国での高校進学を諦め日本の公立高校に通いました。今思い返すとその時の選択は間違っていなかったと思っています。なぜならば、高校での野球を通して基本的な人間形成、つまり礼儀・尊重・団結力など人としてどうあるべきかを学ぶことが出来ました。これは中国の高校では学べない日本の高等教育のすばらしい点だと考えています。中国では、多くの中学・高校が朝

早くから夜遅くまで目指すは北京大学という名の下、勉強また勉強という状況です。知識を多く詰め込みますが、この時社会の一員としてどうするべきという道徳などは教えていません。もちろん中国社会や一人っ子政策がこのような教育体制を作り出してしまったことは間違いありません。

日本で充実した高校生活を過ごしていた頃、ニュースでまた日中関係の問題や中国国内の反日デモの様子が流されていました。一度中国を訪れたことがあるので、とても複雑な気持ちと本当の中国が知りたいという興味がとても湧いてきました。この強い興味が私を高校卒業後北京へ自然と導いてくれたと思います。これが私の中国留学が決定した経緯です。最近多くの人から「なぜ中国に留学をしようと思ったんですか？」と聞かれます。普通の学生にとっては、中国留学ではなくアメリカや欧米圏などの留学が一般的です。ですが私の場合は、中学の時に中国から多くの刺激を受け、興味に身を任せて留学を決定したと答えています。大した理由はありません。自分が「これだ」と思ったものが中国というだけのことでした。私が通っていた公立高校を始め、日本の多くの高校が海外留学の情報が不足していると考えています。幸いな事に、私は中学の時に国外を見るチャンスがありました。もし私が中国とは無縁で高校を卒業していたら今の自分はないと思います。この高校の情報不足については、北京でも多くの日本人学生と討論し、意見を交わしています。一般的に高校卒業後、日本の国内の大学または専門学校に行くのが主流になっており、高校卒業後海外の大学に行く方はとても少ないように思います。もう少し高校はより多くの情報を持ち高校生にチャンスを与え選択できるような環境を準備し、これから世界が必要とするグローバル人材を育成していくべきだと考えています。

### 「北京での留学生活」

ここまで日中関係の問題と私の留学経緯について述べてきましたが、ここからは皆さんがとても興味があると思われる中国北京の学生生活を詳しくご紹介していきたいと思えます。私は、高校卒業後最初に北京大学の語学班で1年程中国語を学びました。中国語は一言も話せなかったのですが、やはり日本人ということがあり、クラス分け試験では普通より良い成績を取り、中級のクラスに入ることが出来ました。クラスはアメリカ・韓国・インドネシア等国际色豊かなメンバーにより構成され、彼らは自国の大学から交換留学できた人たちがメインです。多くの方が所謂中国の血が混ざっているハーフの学生で、中国語を話すのは問題なくただ筆記が出来ないということでした。授業が始まり次第に先生と流暢に会話する彼らの中、私だけがコミュニケーションが上手くいかず苦勞したのを覚えています。話せないという不安と焦りで授業に参加するのが嫌になった時もありましたが、毎日の中国人学生との会話トレーニングや積極的に発言しようという態度が、知らない内に不安や焦りを消してくれました。中国語である程度会話が出来ようになるのに半年も費やしましたが、人とコミュニケーションがとれ自分言いたいことが言えるようになると中国の生活が一転しとても愉快になりました。食事も初めは少しお腹を壊しましたが、直ぐに慣れ多くの異国の友達と色々なお店に食べに行きました。時が過ぎるのが早く、あっという間に1年という北京大学での時間が経過し、私の次の舞台である北京対外経済貿易大学に移ります。北京大学にいるころから経済の分野に興味を持ち始めていた私は、北京でも有名な経済と貿易の大学に進みます。

私が今通っている対外経済貿易大学は、1951年に設立され中華人民共和国教育部商務部直属の国家重点大学であり、中国で国際化の商業経営人材を育成する最高学府であります。大学には、国際経済貿易・法学・商学・金融・国際関係・文学等の学部を揃えまた国際色豊かな大学となっています。日本の大学(例:一橋大学・立命館大学・日本大学・明治大学)、アメリカの大学(例:テキサス大学・ミシガン州立大学・メリーランド大学)、他にも多くの大学と提携し交流を推進しています。現在私は大学3年生であり、毎日授業が多く忙しいですが充実した日々を送っています。授業は主に経済と貿易を英語と中国語で行い、色々な意見を交わしながら進行していきます。日本のようにただ聞く授業ではなく、1つの事例や問題に対し色々な国の学生が自分の考え方を積極的に発言し、皆が納得する答えを導いていくのでとても考えさせられる授業になっています。

また大学内の宿舎は、基本的に2人部屋になっており、私の場合はアメリカ人がルームメートなので英語も教えてもらい中国語と英語をマスター出来るメリットもあります。

総合的に見て勉強できる環境が中国は整っており、日本の大学と比較するとかなり学費も安いのでこれからは中国留学はとてもお勧めだと思います。

### 「BJSA 北京日本人留学生社団」

次に私が北京で力を注ぎ込んできた日中交流活動についてご紹介したいと思います。BJSA 北京日本人留学生社団は、「大学間のネットワークを構築すると同時に、大学を越えて北京に留学している日本人学生として自らの頭で、自らの手で日中交流を推進していこう」という声から2010年9月27日に発足した北京最大の日本人留学生団体です。組織構造は、各大学の日本人留学生会の会長と副会長を集めた団体で今現在北京大学を初め北京にある15校の大学が参加を表明し、規模は拡大しています。日本人だけではなく、各大学の日本語学科に所属している中国人学生が私達のカウンターパートナーとなり、総勢で3,000人規模となります。私は、今団体の代表を務めており多くの日中交流イベントを企画し運営してきました。その中でこれだけは、本誌を読まれた皆様に伝えておきたいと思います。日本のニュースで見る中国は本当の中国ではありません。共産党独裁体制の中国国民は自由を探しもがいています。反日デモは政府の主導により動かされ、あたかも中国人が日本人を嫌っているように見せています。私達が歴史を踏まえ意見を交換し前向きに進んでいこうと努力すれば、必ず道は開けます。多くの中国人は日本に興味があっても国の体制上言論の自由もなく、仕方がなく今の現状が続いています。私達学生は、お互いにまだまだ知らないことが多い中、まず正しい情報を伝えるべく日々若者の交流をしています。今交流している中国人の学生が政府の幹部となり日中間を変えてくれることを素直に願っています。国内にいる日本人の皆様も是非情報を多角的に見て頂き、本当の情報を手に入れて欲しいと思います。最後に私達が去年から今年まで活動してきた内容を下記に簡単にまとめましたので是非御一読下さい。

## 2012年日中国交正常化40周年認定事業

## ① 第二回日中友好夏MATSURI2012年(2012年6月9日)

テーマは、「日中両国の学生により日本伝統の夏祭りを共同で作り上げることで文化・人間性を深く認識してもらう」。具体的には、BJSAのカウンターパートナーである各大学の日本語を学ぶ日本語学科の中国人学生が多数参加。

舞台パフォーマンスは、ソーラン節、ウクレレ演奏、ダンス、カンフー、剣道、すいか割り、養犬協会、二胡、浴衣ファッションショー、盆踊り、特別ゲストとして日本から名門草月流派の華道家と沖縄の伝統楽器三線の演奏者をお呼びし、会場は大変盛り上がりを見せた。

また今回から飲食屋台を設け、お好み焼き、焼そば、磯辺焼き、お寿司、ビール等を販売し、日本の夏祭りを彷彿させるような雰囲気醸し出した異国での夏祭りだった。

評価反省：多くの参加者の方々に大変満足して頂いたと思う。ピーク時には、飲食屋台には長蛇の列ができ大変人気。だがその反面照明や飲食屋台の電気系統に対する準備不足により度々問題が起こる。去年の反省点である貴重品管理については、概ね改善できた。今回の電気系統の反省点を次回は克服できるよう今後取り組んでいく。

(日中来場者数約5,000人)

## ② スーパー夏祭り in 北京 2012(2012年9月1日・2日)

40周年記念の最大イベントとして、日本側「2012日中国民年実行委員会」と北京側「北京推進委員会」が共同で開催。テーマの「新たな出会い・心の絆」をモットーに文化・人・食・地方の出会いの夏祭りを目標とする。

日本からは、経団連会長の米倉様を初め多くの政財界著名人が参加。9月の日中関係が敏感な中、厳戒態勢で臨んだ夏祭り全体で約4,000人が来場し、舞台パフォーマンス・ゲーム屋台・飲食屋台・企業PRブース等を楽しんだ。私達BJSAは、学生団体として北京推進委員会に加わり学生の目線で意見し成功ため全力を尽くしたのである。



2012年夏祭り

(日中来場者数約4,000人)

## ③ 第三回日中合同成人式(2013年1月7日)

昨年から続く日中領土問題により、2013年第三回成人式を開催できるかどうか私達はまずこの問題から検討を重ねた。幸いにも在中国日本国大使館より、安全面を考慮し、大使館内での開催なら可能であると許可を頂き開催が実現に漕ぎ着けた。

毎年継続し既に第三回目を迎えた成人式、今年は「偏見のない1つの交流空間」を日中両国の学生に提供することを目標とし奮闘。

その結果全体で約220人が参加。その過半数以上が中国人学生であり、若者の交流に対

し真剣に考え向き合ってくれた日中の学生から今後の日中間の突破口が見えた式典と評価できる。

(日中留学生参加者約 220 人)

### 2013 年成人式



#### <今後の活動予定>

##### 日本語スピーチコンテスト (2013年5月)

中国での日本語スピーチコンテストの決勝大会が北京で5月に開催される。

BJSAは、この大会の運営サポートをする形で参加する予定です。

##### 日中友好夏 MATSURI 2013年(6月 or 9月)

今回は、在中国日本国大使館が中心となり中国日本商会、北京日本人会、北京和僑会、北京日本人留学生社団 BJSA より実行委員を集め組織し開催する予定です。

上記のすべての交流イベントについて、毎年継続して民間の草の根交流をしていくことが最大の意義であり、そのためにも日本人が一丸となり活動していくことが必要になります。私達学生は今できる範囲での交流活動を推し進めていき 100年後の未来に本当の意味での日中友好を実現出来るように頑張ります。